

令和6年度事業報告

令和6年1月1日の能登半島地震や7月25日の山形県内の豪雨災害等、日本各地で自然災害が発生しました。山形県内の豪雨災害では最上地方、庄内地方、村山市の広範囲に同時期に発生したため、災害ボランティアの人材確保や災害ボランティアセンターの運営に対する支援などの課題が浮き彫りになりました。また、米などの食料品やエネルギー価格の高騰が続き、今もなお国民の生活に大きな負担となっています。

このような状況の中、本会では、令和2年度に策定した「第3期新庄市地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画」に基づき、地域福祉の中心的な役割と使命を認識しながら各事業を推進してまいりました。

物価高騰等により生活していくことが困難な世帯には、フードバンクによる食料品の支給や生活保護受給までの生活費として小口貸付を行いました。生活福祉資金貸付業務として、コロナ時期に生活を維持することが困難になった世帯に対し、貸付後の生活状況の把握や償還指導等のフォローアップ支援を行いました。

ボランティアセンターでは、7月に豪雨災害で被災された世帯のニーズ調査を行い、支援を希望した世帯に対し、ボランティアによる泥出し作業や浸水した家財道具の運搬、清掃作業を行いました。また、戸沢村社協には災害ボランティアセンターの運営支援として、職員を派遣しました。

高齢者の健康対策事業では、高齢者が地域で孤立しないようサロン活動の拠点を増やし、地域交流を図りました。また、高齢者の健康増進のため、ワナゲ大会や介護予防体操を実施しました。

放課後児童クラブでは、職員のスキルアップのため積極的に研修会に参加しました。また、外部団体やボランティアの受入を強化し、利用児童との交流を深めることができました。

もみの木介護支援事業所では、介護を必要としている方や家族の相談に応じ、最適な介護サービスが提供できるよう、ケアプランの作成、各介護保険サービス事業者との連絡調整等を行いました。

もみの木訪問介護事業所では、利用者の心身の特性を踏まえて、在宅で自立した日常生活を営むことができるように、入浴、排泄、食事等の身体介護、掃除、洗濯、調理等の生活援助、通院時の外出移動サポートを行い、利用者とその家族の介護負担の軽減を図りました。

地域包括支援センターでは、高齢者等に関するあらゆる相談を受け止め、課題解決に向けた助言や適切なサービスに繋げる支援を行ないました。様々な課題を抱えた支援困難事例に対しては、行政や医療機関、民生委員等と随時協議しながら専門的な支援を実施しました。また、オレンジ市場（認知症カフェや障がい者施設の物品販売）や社協事務局と連携し、小中学校等での福祉教育（昔遊びやスポーツ交流）を実施しました。高齢・障がい・児童など分野を超えた交流の機会をつくり、地域共生社会に向けたネットワーク構築を図りました。

各事業にご支援ご協力をいただいた関係各位に感謝申し上げます、令和6年度主要事業につきましてご報告いたします。

【法人・地域福祉事業】

1. 役員会等運営事業

(1) 理事会の開催

◇第1回理事会	令和6年 6月 5日 (水)	出席理事 9名 出席監事 2名
---------	----------------	--------------------

◇第2回理事会	令和6年 11月 8日 (金)	出席理事 14名 出席監事 2名
---------	-----------------	---------------------

◇第3回理事会	令和7年 3月 17日 (月)	出席理事 12名 出席監事 1名
---------	-----------------	---------------------

(2) 評議員会の開催

◇第1回評議員会	令和6年 6月 26日 (水)	出席評議員 22名 出席監事 2名
----------	-----------------	----------------------

◇第2回評議員会	令和7年 3月 26日 (水)	出席評議員 19名
----------	-----------------	-----------

(3) 監査の開催

◇第1回監査	令和6年 5月 20日 (月)	出席監事 2名 (令和5年度分)
◇第2回監査	令和6年 11月 22日 (金)	出席監事 2名

(4) 委員会の開催

◇評議員選任・解任委員会	令和6年 6月 10日 (月)	出席委員 4名
	令和7年 3月 18日 (火)	書面による決議
◇老人福祉センター運営委員会	令和6年 8月 5日 (月)	出席委員 5名
◇歳末たすけあい配分委員会	令和6年 12月 6日 (金)	出席委員 6名
◇新庄市善意銀行運営委員会	令和6年 12月 6日 (金)	出席委員 6名
◇会長表彰選考委員会	令和7年 2月 12日 (水)	出席委員 4名

(5) その他

◇会計訪問指導	令和6年 5月 13日 (月)	天口税理士
	令和6年 9月 18日 (水)	天口税理士
	令和7年 1月 29日 (水)	天口税理士
◇市監査	令和6年 6月 19日 (水)	
◇労働基準監督署調査	令和6年 10月 18日 (金)	新庄労働基準監督署
◇福祉サービス利用援助事業に関わるヒアリング	令和6年 10月 22日 (火)	県社協
◇新庄市介護保険施設等に 係る集団指導	令和7年 3月 18日 (火)	

2. 事務局運営事業

【関係機関及び団体との連携】

①行政(新庄市)との連携

- ・事業運営に関し、所轄庁としての助言・指導をいただいた。
- ・社会福祉協議会事業の情報の共有に努め、市の広報紙等に掲載協力をいただいた。
- ・社会福祉協議会運営費、老人福祉センター運営費の補助をいただいた。

- ・地域包括支援センター運営事業、要介護認定調査、放課後児童健全育成事業（日新・萩野・明倫・新庄）、地域活動組織育成支援事業、敬老会支援事業を委託事業として実施した。
- ・福祉サービス利用援助事業、貸付事業等の制度・サービスの運営における要援護者の支援を連携して行った

②区長協議会との連携

- ・社会福祉協議会の協力員として、常に市民の先頭に立ち地域福祉・高齢福祉事業及び共同募金事業などの普及活動や啓蒙、広報紙の配布、会費・募金の徴収等幅広くご協力をいただいた。

③民生委員児童委員協議会との連携

- ・社協の各種事業を進めるうえで、ニーズの把握や情報提供にご協力いただいた。
- ・生活福祉資金貸付事務事業では、低所得者世帯の更生を図るため、指導や意見、対象世帯の見守りにご協力いただいた。
- ・歳末たすけあい募金の配分実施では、対象世帯の調査及び配付のご協力をいただいた。

④県社会福祉協議会との連携

- ・生活福祉資金貸付事業・福祉サービス利用援助事業を委託事業として実施した。
- ・社会福祉関連事業を進める上で指導、意見をいただいた。

⑤関係諸団体との連携

- ・婦人会、老人クラブ連合会、身体障害者福祉協会、更生保護女性会、交通安全母の会やその他の関係諸団体と、共同募金活動等、各事業において連携とご協力をいただいた。

（事業効果等）

各機関、団体のご指導・ご協力により、円滑な社協事業の運営が図られた。

⑥地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に向けた取り組み

- ・令和２年度に策定した第３期地域福祉計画・第４期地域福祉活動計画の推進状況について、年次評価（各事業の実施状況の把握、分析等）を行うため、検討会と推進委員会を開催した。

○検討会の開催

- ・日時：令和６年１１月 １日（金）１５：４５～１７：００
- ・場所：新庄市役所

○推進委員会の開催

- ・日時：令和６年１１月１９日（火）１３：３０～１５：００
- ・場所：新庄市役所

（事業効果等）

令和２年度に策定した第３期地域福祉計画・第４期地域福祉活動計画における年次評価（各

事業の実施状況の把握、分析等）を行うことで、検討会及び推進委員会において、令和５年度の取り組み状況を確認し、福祉課題について共有することができた。

⑦最上地域社会福祉協議会情報交換会の実施

- ・日時：令和７年２月２８日（金）１０：００～１２：００
- ・場所：社協３階会議室
- ・内容：各社協の現状や課題など情報交換を行った。

（事業効果等）

「災害ボランティアセンター」の設置運営研修を次年度に最上地域８市町村社協合同で行うこととした。

３．会 費

会費の納入に理解を求めるとともに、納入の便宜を図るため金融機関（新庄信用金庫・新庄市農協・もがみ中央農協）での振込を促進した。

また、６月下旬の５日間の期間、市役所内で行う各種会費等の集中受付に同席し、社協窓口を設け、納入の簡便化に努めた。

令和６年度実績額	前年度実績額	前年度比較	対前年比	振込利用件数
７,５９３,２００円	７,５６５,０００円	２８,２００円	１００.４％	７件

集中受付期間 ６月１７日～２３日

期間中社協会費納付地区数 １７８町内

（課題等）

社協事業への理解や協力を求めるため、ホームページや会議の場での情報提供、広報紙やSNSによる広報活動を今後も継続する。

４．実習生の受入れ

専門的な知識や実践力の高い人材の育成のため、将来の福祉を担う資格取得を目指す実習生の受入れを行った。

（事務局）

【新中ハローワーク生徒受入れ】

新庄中学校生徒１名 受入れ期間 令和６年８月２日（金）

（地域包括支援センター）

【課題研究に関わる訪問】

新庄北高 学生 １名 受入れ期間 令和６年７月１０日（水）

【インターンシップ】

惺山高校 学生 １名 受入れ期間 令和６年７月２６日（金）

【地域包括支援実習】

山形県立保健医療大学 学生 ２名

受入れ期間 令和６年９月１７日（火）～２０日（金）

【認定看護管理者教育課程セカンドレベル施設実習】

山形県立新庄病院 看護師 受入れ期間 令和6年10月23日（水）

（事業効果等）

実習生を受け入れることで、将来の福祉を担う専門的な人材が育成されると共に、指導する担当者が専門職としての知識や技術の再確認を行うことができた。

5. 職員研修

各事業所が個々の専門職としての知識・技術を高めるための継続的な研修の他に、職員育成のための研修を行った。

○令和6年度新規採用職員研修

新たに正職員となった職員を対象に、法人組織の一員としての基本的知識の習得及び社会人・組織人としての自覚形成を促し、地域福祉を推進することができる社協職員に育成することを目的に行った。

日時：令和6年4月12日（金）9時～12時

場所：社協3階会議室

対象：新規採用職員1名

講師：森常務理事、三浦事務局長、高橋事務局次長、黒坂事務局次長

○高齢者虐待防止研修

福祉に携わる職員は、虐待を発見しやすい立場であることを改めて自覚するとともに、虐待発生の背景や課題、虐待を発見した場合の対応等を確認した。

日時：令和6年11月26日（火）13時30分～15時

場所：社協3階会議室

対象：訪問介護事業所、介護支援事業所、地域包括支援センター職員

参加人数：24名

○交通安全講習会

日時：令和7年1月28日（火）13時30分～15時

場所：社協3階会議室

内容：山形県内の事故状況について、事例紹介、グループディスカッションなど

講師：山形県火災共済協同組合 菅野祥生氏、松田信人氏

参加人数：32名

6. 各種表彰該当者の推薦

第74回山形県民福祉大会

開催日：令和6年11月14日（木）

場 所：シェルターなんようホール

社会福祉の分野で顕著な功績があった方に対し、その功を称え表彰状が贈られた。

◇ 県知事表彰

共同募金運動奉仕者 黒田真理子

◇ 大会会長表彰

社会福祉事業協助・奉仕者 小林 睦子 阿部まゆみ

◇ 山形県社会福祉協議会会長感謝状

社会福祉法人平和春秋会新庄保育園

(敬称略・順不同)

7. 福祉教育の推進

学校へ赤い羽根共同募金の街頭募金や除雪ボランティア等への参加を呼びかけ、福祉教育の推進を図ると共に、小学校、中学校、義務教育学校の総合的な学習の時間において、認知症キッズサポーター養成講座を開催した。

また、「スポーツ交流会」「昔あそび」を行う福祉教育を、学校と地域の高齢者ボランティアに協力いただきながら開催した。

日 付	開催学校	人 数	内 容
令和 6 年 5 月 22 日(水)	萩野学園 1 年生	2 3	昔遊び
令和 6 年 5 月 22 日(水)	萩野学園 1 年生	2 3	認知症キッズサポーター養成講座
令和 6 年 6 月 21 日(金)	明倫学園 6 年生	7 3	認知症キッズサポーター養成講座
令和 6 年 6 月 27 日(木)	明倫学園 6 年生	7 3	スポーツ交流会
令和 6 年 7 月 22 日(月)	本合海小学校 全学年	1 4	スポーツ交流会
令和 6 年 8 月 27 日(火)	八向中学校 全学年	2 8	認知症キッズサポーター養成講座
令和 6 年 10 月 31 日(木)	八向中学校 全学年	2 9	スポーツ交流会
令和 6 年 11 月 6 日(水)	新庄小学校 4 年生	4 9	認知症キッズサポーター養成講座
令和 6 年 12 月 4 日(水)	升形小学校 全学年	2 5	スポーツ交流会
令和 6 年 12 月 11 日(水)	日新小学校 1 年生	4 8	スポーツ交流会
令和 6 年 12 月 12 日(木)	日新小学校 1 年生	4 8	スポーツ交流会
令和 7 年 1 月 29 日(水)	升形小学校 5, 6 年生	9	認知症キッズサポーター養成講座

(事業効果等)

認知症を知り地域を支える取組みについて理解を深める機会を設け地域共生社会の推進を図れた。また、地域や学校と連携を図りながら、世代間交流を実施することができた。

8. 福祉サービス利用援助事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

認知症の症状や知的障がい、精神障がい等によって必要な福祉サービスを自身の判断で適切に選択・利用することが難しい方を対象に、福祉サービスの利用手続きの援助を基本サービスとして、必要に応じて日常的な金銭管理の支援を行った。

基幹的社協分利用件数 2 3 件（前年度 2 5 件）

内、新規契約締結件数 1 件、解約件数 3 件

令和 6 年度相談件数 2 8 6 件（前年度 3 9 2 件）

(事業効果等)

物価高騰の影響で生活費のやりくりが難しい等の相談が多かったが、利用者の生活状況の変化を把握しながら柔軟に対応し、福祉サービス等の利用援助や日常的金銭管理を実施することができた。

9. 生活福祉資金貸付事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

低所得者世帯等の経済的自立と教育支援を図るため、貸付を実施した。滞納者に対しては、償還指導、相談援助を行った。

〈令和6年度貸付内訳〉

資金種類	件数	貸付金額
福祉資金（修繕・葬儀・技能習得・障がい者用自動車）	4件	2,208,000円
緊急小口資金	5件	430,000円
教育支援資金（就学支度費・教育支援費）	3件	1,432,000円
合計	12件	4,070,000円

(事業効果等)

低所得世帯に対し、資金の貸付や相談支援等を行うことにより、自活できると認められる世帯で、必要な資金を銀行等から借り受けることが困難な世帯に対し、担当民生委員と連携を図り、貸付や償還指導を行った。

特例貸付の借受世帯に関しては、失業状態や物価高騰の影響で生活状況が改善せず償還が困難な世帯に対し、電話や文書等で償還免除、猶予等の相談支援を行った。

10. 地域活動組織育成支援事業（地域ふれあいサロン事業 市委託事業）

高齢者が住み慣れた地域で生き生きと過ごすことができるよう、閉じこもり予防や介護予防を目的とした「地域ふれあいサロン」の活動や運営を支援した。

◇サロン活動の実施状況

	開催地区	実施回数（回）	参加人数（名）
1	下金沢地区	8	23
2	老人福祉センター周辺	12	95
3	泉田地区	9	86
4	本合海地区	36	178
5	金沢新町	28	228
6	あたご地区	8	67
7	本宮1区	20	142
8	野際団地	9	72
9	八向地区（サロン桜）	12	82
10	西町地区	4	16
11	千門町地区	29	225
12	下仲町地区	8	61
13	吉袋地区	12	169

1 4	鳥越	1 6	1 8 9
1 5	梨の木	1 3	7 9
1 6	小泉	4 9	4 4 6
1 7	下田町	1 9	1 3 2
1 8	上茶屋町	4 4	3 9 2
1 9	東山	1 6	1 9 0
2 0	上名古屋敷	1 4	7 5
2 1	八向地区（どんぐりの会）	5 2	4 3 3
2 2	横根山	1 5	1 0 3
2 3	升形3区	2 3	2 4 5
2 4	末広町	4 3	4 8 5
2 5	中道町	4 5	6 8 4
2 6	老人センター周辺（新規）	8 6	3 5 6
2 7	萩野（新規）	3 4	5 1 8
2 8	金沢（よもぎサロン）（新規）	4 2	4 1 6
2 9	本宮2区（新規）	2	9
3 0	日の出町（新規）	3 4	2 9 7
3 1	金沢（脳トレサロンワハハ!）（新規）	8	1 1 7
合 計		7 5 0	6, 6 1 0

（事業効果等）

昨年度より開催場所、開催回数、参加人数が増えた。

◇地域ふれあいサロン交流会

サロン活動を活性化するために、他地区サロンとの交流や意見交換の場として交流会を実施した。

開 催 日：令和6年9月30日（月）

場 所：最上広域交流センター「ゆめりあ」2階会議室

参加人数：17地区のふれあいサロン計30名

1 1. 敬老会支援事業（市委託事業）

町内会等で開催される敬老会の行事に必要な経費の一部を助成した。

開催地区 8地区 参加者 591人

補助金額 161,826円

（事業効果等）

敬老会を支援することで、高齢者福祉の増進に寄与した。

1 2. 新庄市善意銀行事業

30,000円を限度に生活困窮世帯に貸付を行った。

			令和6年度	前年度	対前年比(%)
現 年 度	払出	件数	0件	0件	0
		金額	0円	0円	0
	貸付	件数	32件	31件	103.2
		金額	647,000円	620,000円	104.4
	未償還	件数	16件	12件	133.3
		金額	279,000円	257,000円	108.6
全 体	未償還	件数	25件	19件	131.6
		金額	440,000円	397,000円	110.8

(事業効果等)

転職、急な疾病などで生活費が不足し生計の維持が困難になった世帯の相談に応じ、給与や公的給付が入るまでに必要な生活費を貸付した。生活自立支援センターもがみと連携し、生活状況の把握や家計に関する助言を通して、自立に向けた支援を行った。

〈参考〉貸付年度別未償還件数

年度	R4	R5	R6	合計
件数	4	5	16	25

13. 放課後児童健全育成事業（市委託事業）

市の委託を受け、市内4ヶ所の放課後児童クラブを運営した。

日新放課後児童クラブ（松本）

萩野放課後児童クラブ（萩野学園内）

新庄放課後児童クラブ（新庄小学校内）

明倫放課後児童クラブ（明倫学園内）

施設	職員数	年間開所 日数	定員	利用児童数（名）				
				年間利用者数	年度当初	年度末	1日あたり 利用人数	1日あたり 利用人数 (土曜日除く)
日新	9名	288日	90名	14,339	89	69	49.8	58.7
萩野	4名	288日	40名	6,987	37	35	24.3	28.9
新庄	4名	288日	40名	8,340	47	42	29	34.2
明倫	5名	288日	60名	11,110	60	59	38.6	45.9

(研修等)

○交通安全教室

期 日：令和6年5月27日(月)

場 所：日新放課後児童クラブ

講 師：新庄市環境課 交通安全指導専門員

参 加 者：利用児童全員及び職員

○第1回最上地区放課後子ども指導者等研修会

「気になる子への理解と保護者支援」

期 日：令和6年6月18日(火)

場 所：最上総合支庁5階講堂

講 師：山形県立保健医療大学 特任教授 佐竹 真次 氏

参加人数：日新6名、明倫5名、新庄3名、萩野4名 計18名

○山形県放課後児童クラブ指導員研修会

「こどもまんなか」政策と放課後児童クラブのこれから

期 日：令和6年6月19日(水)

場 所：ゆめりあ2階会議室

講 師：東北文教大学 曾根 章友 氏

参加人数：日新2名、明倫1名、新庄1名 萩野1名 計5名

○放課後児童支援員認定資格研修

日 程：6/3、6/12～13、6/17、6/21、6/26～28(8日間)

場 所：寒河江市中央公民館2階小ホール

受 講 者：日新1名

日 程：9/2、9/9～13、9/25、9/30(8日間)

場 所：庄内総合支庁講堂

受 講 者：新庄1名

○応急手当講習会

施設利用児・者が倒れた場合の対処法やAEDの使い方について、最上広域市町村圏組合消防本部の職員を講師に迎え、講習会を開催した。

日 時：令和6年7月4日(木) 10時～12時

場 所：社協3階会議室

参加人数：日新7名、明倫5名、新庄4名、萩野4名 計20名

○新庄市ペアレントプログラム講座支援者向け研修会

「発達障がいのある子どものこだわり行動、その強みを生かす」

期 日：令和6年9月7日(土)

場 所：新庄市民プラザ小ホール

参加人数：明倫1名

○「花笠ほ～ぷ隊」と疑似体験

～ひろげよう・つながろう！だれもが暮らしやすい社会に～

期 日：令和6年9月28日(土)

場 所：雪の里情報館2F 文化ホール

参加人数：明倫1名

○早期からの親子サポート事業 最上地区講演会

期 日：令和6年10月6日（日）

場 所：新庄市民文化会館

参加人数：日新2名、明倫1名

内 容：発達支援に関する講習会、ゲーム依存にならないための関わり方についての講演会

○第2回最上地区放課後子ども指導者等研修会

「放課後の子どもの学びと安全」

期 日：令和6年10月31日（木）

場 所：山屋セミナーハウス

参加人数：日新6名、明倫5名、新庄4名、萩野4名 計19名

○学習支援ボランティア意見交換会

期 日：令和7年2月21日（金）

場 所：新庄市社会福祉協議会3階会議室

参加人数：学習支援ボランティア10名

（外部団体との交流等）

○学習支援ボランティア12名

実施回数：新庄19回、明倫19回、日新16回、萩野15回

延人数：164名

内 容：学習支援、利用児童との交流

○パートナーシップオフィス1名、東北公益文化大学ボランティア6名

期 日：令和6年4月3日（水）

場 所：明倫放課後児童クラブ

内 容：海ごみカルタを使った学習と遊び

※ 4ヵ所の放課後児童クラブに海ごみカルタをいただいた。

○折り紙ボランティア

期 日：令和6年5月20日（月）、8月19日（月）

場 所：新庄（5/20）・明倫放課後児童クラブ（8/19）

○東北芸術工科大学学生ボランティア5名

期 日：令和6年5月25日（土）

場 所：明倫放課後児童クラブ

内 容：絵具を使ったワークショップ

○木目アート体験

期 日：令和6年6月15日（土）、8月2日（金）

場 所：新庄放課後児童クラブ

内 容：木に絵具で絵を描く

講 師：アトリエme+iro代表 Hitomi氏

○消費生活出前講座

日 時：令和6年7月30日（火）
場 所：明倫放課後児童クラブ
内 容：お金の大切さ等

○いろいろな軽スポーツに触れてみよう

日 時：令和6年8月1日（木）
場 所：明倫放課後児童クラブ

○職場体験受け入れ 中学生1名

日 時：令和6年8月2日（金）
場 所：新庄放課後児童クラブ

○モルックに触れてみよう

日 時：令和6年8月5日（月）
場 所：明倫放課後児童クラブ

○最上地区中学生ボランティアセミナー

日 時：令和6年8月8日（木）
場 所：新庄・明倫放課後児童クラブ
内 容：利用児童との交流
参 加 者：新庄5名、明倫4名

○健康食生活・運動で健康づくり

日 時：令和6年8月9日（金）
場 所：明倫放課後児童クラブ

○食育バスツアー(市農林課主催)

期 日：令和6年8月10日（木）
場 所：新庄放課後児童クラブ
内 容：農作物を収穫し、料理教室を実施
参 加 者：3年生以上

○新庄市青少年ボランティアしずく高校生4名

期 日：令和7年3月18日（火）
場 所：明倫放課後児童クラブ
内 容：スライム作り

○花の風の会

期 日：令和7年3月24日（月）
場 所：新庄放課後児童クラブ
内 容：フォトフレーム作り

○横山由紀子先生ボランティア

期 日：令和7年3月26日（水）

場 所：明倫放課後児童クラブ

内 容：読み聞かせとシンデレラゲーム

（事業効果等）

子どもが安心して過ごせる生活の場として安全面を配慮しながら健全育成を図ることができた。

研修会等に積極的に参加し、職員のスキルアップを行った。また、昨年度に策定した業務継続計画及び安全計画を基に組織体制の再確認と各職員の役割の整理を行った。

積極的にボランティアや外部団体の受入を行い、利用児童との交流を図った。

（課題等）

日新放課後児童クラブについては、他の放課後児童クラブと異なり、小学校の敷地内の設置ではないため、職員が小学校に迎えに行っている。入所児童の車道への飛び出しや、死角になる場所があり、交通安全面で不安があり職員の心理的負担となっている。また、現在の建物は昭和50年に建てられた旧県立新庄農業高校の星芒寮を改修したもので、職員の目が行き届かない危険な場所が多い。建物自体の老朽化が進んでおり、耐震についても不安がある。常勤職員の処遇は改善されたが、人手が足りない場合は事務局職員やシルバー人材センターの会員で対応した。また、自然災害が増えていることから学校が臨時休業となった場合や警戒レベルによる放課後児童クラブの対応を明確に整理する必要がある。各放課後児童クラブの運営や設備面で改善が必要な場合は随時市と協議していく。

14. 連絡調整育成指導事業

下記の団体に補助金を交付した。

団 体 名	内 容 等	金 額（円）
新庄市戦没者遺族会	戦没者遺族会活動事業への支援 （市補助金243,000円）	243,000
新庄市民生委員児童委員協議会	調査協力費の交付	56,000
新庄市更生保護女性会	青少年非行防止等事業への助成	43,000

（事業効果等）

各団体の事業推進を支援した。



がついている事業は共同募金の配分金で実施している事業です。

15. 企画・広報・情報事業（共同募金配分金事業）

（1）広報紙「社協だより」の発行

◇第54号	令和6年 7月発行	全戸配布
◇第55号	令和6年10月発行	全戸配布
◇第56号	令和7年 3月発行	全戸配布

（事業効果等）

活動写真を主体として、目につきやすい、読みやすい広報紙づくりに努めた。社会福祉協議会の事業内容や福祉情報、地域福祉活動を幅広く掲載し、市民の地域福祉活動への関心をより高めるとともに、各種情報の提供を行った。

（2）社協だより「お知らせ版」の発行

毎月の社協の情報をより多くの方々に提供するために「お知らせ版」を発行し、情報発信を行った。

- ◇広報紙配布先 民生委員・児童委員、放課後児童クラブ保護者、市内介護支援事業所
日新小学校、新庄小学校、升形小学校、八向中学校、明倫学園等
- ◇広報紙設置先 市民プラザ、わくわく新庄、新庄図書館、ゆめりあ、市民文化会館、
雪の里情報館、わらすこ広場、萩野地区公民館、山屋セミナーハウス、
ほしてらす、日本調剤新庄薬局、新庄市成人福祉課、新庄警察署、
すぎのこハウス、新庄信用金庫本店、ナイン鍼灸治療院

（3）ホームページ・SNS（フェイスブック・Instagram・X）の運営

（事業効果等）

社会福祉協議会の事業や活動について、ホームページ・SNS（フェイスブック・Instagram・X）を媒体とすることで、研修会や義援金の案内、ボランティア活動の報告など、よりタイムリーに市民の皆様へ情報を発信し、広報を強化することができた。



ホームページQRコード



フェイスブックQRコード



InstagramQRコード

16. 助成金事業（共同募金配分金事業）

下記の団体との協働を図り、その活動を援助するため負担金等の助成をした。

事業実施福祉団体	内 容 等	金額（円）
社会を明るくする運動推進委員会	少年犯罪・非行の防止、更生援助への支援	28,000
新庄市身体障害者福祉協会	ストレッチ講習会への支援	28,000
新庄建築大工組合	生活困窮世帯等の住宅環境を整備するための修繕経費の助成	36,515

（事業効果等）各団体に助成し、事業推進を図った。

17. 社会福祉協議会表彰等事業（共同募金配分金事業）

社会福祉協議会表彰

開催日：令和7年3月5日（水） 場所：新庄市社会福祉協議会3階会議室

社会福祉事業に多大な貢献のあった個人・団体に対し、その功を称え表彰を行った。

◇ 会長表彰受賞者 6名

《民生委員・児童委員功労者》

小野 光壽 小屋いずみ 小野 徳子

大野 高子 城水 博子 荒川 静江

◇ 会長感謝状 3名

《社会福祉事業協助・奉仕者》

伊藤 富子 （新庄市更生保護女性会会員）

佐藤 佑 （チョキボラ）

佐藤 征彦 （新庄市共同募金委員会募金推進員） （敬称略・順不同）

（事業効果等）顕彰により更なる研鑽・貢献が期待できた。

18. 心配ごと相談事業（共同募金配分金事業）

◇ 弁護士相談 新庄ひまわり基金法律事務所 渡邊 泰孝弁護士

毎月第3週木曜日（午後1時30分～午後4時）

◇ 一般相談 （社協職員対応） 平日 （午前8時30分～午後5時15分）

相談内容	弁護士相談	相談内容	一般相談
借金・多重債務	15件	生 計	45件
離 婚	5件	障 が い	3件
遺言・相続	15件	除 雪	4件
近隣トラブル	4件	そ の 他	8件
財産・不動産	8件		
事 故	1件		
労 働	1件		
消 費 者	2件		
苦 情	1件		
そ の 他	10件		
合 計	62件	合 計	60件

(事業効果等)

弁護士相談において、離婚、相続、借金等の相談に対し、法的な観点から問題解決に向けた助言や適切な方向性についてのアドバイスを行った。

一般相談では、生活困窮に陥っている世帯の相談が多く、フードバンクの活用や、行政、生活自立支援センターもがみ、民生委員児童委員、山形県社会福祉協議会等と連携して、迅速な支援を行うことができた。

19. 援護事業（共同募金配分金事業）

フードバンクの提供

生活自立支援センターもがみ、行政等の関係機関と連携し、新庄市内の33世帯に食品を提供した。(通常18世帯、歳末時15世帯)

(事業効果等)

生活困窮世帯に食料品を支給し、一時的に生活を維持することができた。生活が維持できるように関係機関と連携を図った。

20. 児童遊び場整備事業（共同募金配分金事業）

地域で管理している児童遊園の遊具の修繕費用や保全に必要な原材料の給付を行った。

	申請地区数	総事業費（円）	地元負担金（円）	交付金額（円）
遊具の修繕	4地区	317,336	63,467	253,869
		往還、仁田山、大谷地、清水		
原材料支給等	12地区	169,777	—	169,777
		赤坂、黒沢、福田、二枚橋、市野々、横根山、蛇塚・上野、清水、角沢、仁田山、本宮2区、柏木原		

(事業効果等)

子ども達が安全に遊べるように各地区へ原材料の支給、修繕費の補助を柔軟に実施できた。

21. 高齢者健康対策振興事業（共同募金配分金事業）

第31回会長杯ワナゲ大会の開催

例年にない暑さで厳しいコンディションの中、元気にハツラツと競技に取り組んだ。
新庄市健康課による健康講話も行われ、健康増進への意識を高めるきっかけとなった。

開催日：令和6年9月11日(水) 場所：新庄市体育館

参加人数：19チーム 113名

	団体の部	個人の部	
		男 子	女 子
優 勝	吉祥クラブ	石山 宣助 (末広町寿会)	大山 悦子 (上茶屋町めぶきクラブ)
準優勝	上茶屋町めぶきクラブ	渡部 明 (吉祥クラブ)	栗田 宣子 (吉祥クラブ)
第 3 位	末広町寿会	斉藤 勝明 (萩野宝寿会 B)	大場フジ子 (新松会 A)

(敬称略)

22. 愛のひと声運動事業（共同募金配分金事業）

配達日 毎週月・水・金曜日

利用者 31名 延回数 3,559回

(事業効果等)

市内の乳酸飲料業者と連携し、ひとり暮らしの高齢者を対象に乳酸飲料を配付しながら、声がけや安否確認することで、住み慣れた地域での安心した生活を支援することができた。

23. 高齢者世帯等除雪支援事業（共同募金配分金事業）

ボランティアの協力により、他から除雪に係る作業的・金銭的支援を受けられない高齢者世帯の自宅の玄関前と軒先の除雪を支援した。

実施回数 : 10回 (10世帯)

活動団体数 : 7団体1個人

(団体 : 八向中学校、新庄中学校、農林大学校、新庄コアカレッジ介護福祉科、
株新庄工務所、東北電力ネットワーク株新庄電力センター、新庄市役所「お助けし隊」)

参加人数 : ボランティア延べ89名

(事業効果等)

上記の事業の他、市の冬季高齢者除雪支援事業の対象者のうち、その業務をシルバー人材センターで人員不足等の理由により対応できない世帯に対し、中学生ボランティアで対応できないかを市内の中学校に依頼した。明倫学園66名、八向中学校24名が中学生ボランティアとして登録。明倫学区の対象者5名の自宅に社協職員が訪問し、ボランティア活動の流れなどについて説明した。対象者5名のうち3名が中学生ボランティアの受入の希望があり、活動曜日と時間を決め、当日の午前中に玄関前の除雪が必要かの有無を確認することにした。結果、降雪のタイミングが合わず玄関前に雪がほとんどなかったため、実績としては対象者1名に対し2名の明倫学園学生が玄関前の除雪を行った。

24. ボランティア活動推進事業（共同募金配分金事業）

- ・ボランティアセンターとして、情報提供や活動場所との調整を行った。
- ・ボランティア活動保険の加入業務を行い、ボランティア団体の把握に努めた。

(1) ボランティア講座の開催「地域の中で“やりがい”を見つけるためのボランティア講座」

講義内容：１．「ボランティアとは」

講師 新庄市社会福祉協議会 小野 綾乃

２．「新庄市社会福祉協議会におけるボランティア活動の内容について」

講師 新庄市社会福祉協議会 赤平 航

３．「元気高齢者ボランティアポイント制度について」

開催日：令和６年１０月２９日（火）

場所：ゆめりあ ２階会議室

参加人数：７名

最北地域ボランティアの輪連絡会議交流研修会

講義内容：オレンジレンジとボランティアの連携について

高齢期に、大事なつながり（通いの場を活用し、高齢期のつながりを保つ）

視察研修：新庄市地域包括支援センターで実施しているオレンジ市場、オレンジカフェを見学

開催日：令和６年１１月１日（金）

場所：新庄市社会福祉協議会３階会議室

参加人数：１４名

(2) 災害ボランティア活動

① ７月２５日からの大雨による災害対応（新庄市内）

災害ボランティア登録者数：３団体４２名、個人４３名

災害ボランティア活動者数：２団体３４名、個人２１名

支援依頼件数：１０件（うち１件キャンセル）

災害ボランティア実施件数：１２件（うち２回活動３件）

活動内容：浸水した家具類の搬出、家屋内清掃

② 災害ボランティアバスの運行

日時：令和６年９月７日（土）

活動地：酒田市八幡タウンセンター

活動人数：１０名

活動内容：家屋床下の泥出し、浸水した家具類の搬出、家屋内清掃

③ 戸沢村災害ボランティアセンター職員派遣

派遣日：令和６年８月２２日、２３日、２８日、

９月１２日、１３日、２４日、２５日

延派遣人数：７名

(3) ボランティア団体との協働

・大工ボランティア：新庄建築大工組合のご協力により、低所得高齢者１世帯の老朽化した家屋の軽微な修繕を実施した。

・チョコボラ：訪問理美容ボランティアのご協力により、外出困難な高齢者等へ理髪することにより、福祉向上を図ることができた。

実施件数：１５件

25. 元気・ハツラツ予防体操事業（共同募金配分金事業）

高齢者の方々が生きがいを見つけ、いつまでも自分らしく健康で生活ができるよう、運動機能の向上を目的として介護予防体操を実施した。

（５月から９月）

開催日時・場所：①毎月第１金曜日 １３時～１４時 社会福祉協議会２階
 ②毎月第２金曜日 １３時～１４時 老人福祉センター第１会議室
 ③毎月第３金曜日 １３時～１４時 老人福祉センター第１会議室

（１０月から３月）

開催日時・場所：①毎月第１金曜日 １３時～１４時 社会福祉協議会２階
 ②毎月第２金曜日 １３時～１４時 市民プラザ２階ヘルシールーム
 ③毎月第３金曜日 １３時～１４時 社会福祉協議会２階

参加人数：４３０名

実施回数：３１回

講師：公益社団法人山形県柔道整復師会
 植木 俊和 氏（植木接骨院）
 早坂 耐希 氏（早坂整骨院）
 加藤 修 氏（かとう整骨院）
 早坂 心大 氏（早坂整骨院）

（事業効果等）

社協事務所と老人福祉センターで開催していたが、老人福祉センターを閉所のため、会場を市民プラザヘルシールームに移行した。参加される方の健康に対する意識が高く、日常生活であまり使わない筋肉を刺激することで、筋力や体力の維持・向上することができた。参加者が多く、次年度も引き続き事業を継続していく。

【老人福祉センター運営事業】

1. 老人福祉センター施設管理事業

高齢者のふれあい、生きがいづくりの場として、より多くの方々にご利用いただけるよう運営に努めた。建物の老朽化のため、９月末日で閉所し３月末日で廃止となる。

◇防火設備の点検

非常用ベル等の点検を実施し、利用者の安全確保に努めた。

（１）老人福祉センター利用状況

		令和６年度	前年度	対前年比（％）
開館日数		１４４ 日	２８７ 日	５０．２
利用者	延べ人数	３，４５９ 人	６，６８３ 人	５１．８
	団体数	４２３ 団体	８２９ 団体	５１
	１日の平均利用者数	２４ 人	２３．３ 人	１０３

※令和６年度は９月末日までの実績（９月末日で閉所）

(2) 文化教室別利用状況（社協主催事業 共同募金配分事業）

文化教室種類	令和6年度（人）	前年度（人）	対前年比（%）
けん玉教室	72	139	51.8

※けん玉教室については3か年事業の3年目となり、令和6年度で終了。

10月からは市民プラザで実施。

講師：平山明氏

（日本けん玉協会二級指導員、西東北ブロック長、山形けん玉友の会会長）

(3) 備品等借用

市内の団体及び個人に対し、下記の備品の貸し出しを行った。今年度に「ボッチャ」と「モルック」を購入。

備品等	件数
車椅子	17件
高齢者疑似体験スーツ	2件
ワナゲ用具	3件
ボッチャ	2件
モルック	0件
テント（共同募金配分で購入）	0件
その他	2件

※ 閉所後、社協で備品の貸し出しを行った。

2. 老人福祉センター施設設備事業

修繕なし

(事業効果等)

施設利用者については9月末まで利用していただき、老朽化等の理由により閉所する旨の説明会を2回行った。利用団体については、市民プラザ等、他の公共施設を利用していただくことになった。

(課題等)

旧老人福祉センターの建物については解体する方向性で市と協議していく。

建物の解体費用とそれまでの維持費については全額市で負担していただけるように市と協議していく。

【共同募金事業】

山形県共同募金会新庄市共同募金委員会と連携し、区長をはじめ多くの市民・団体等のご協力を得て募金活動を推進した。

1. 赤い羽根共同募金

〈募金内訳〉

	令和6年度 (円)	前 年 度 (円)	対前年比 (%)
戸別募金 (町内)	3,702,650	3,811,200	97.2
企業募金 (459件)	1,646,500	1,658,224	99.3
街頭募金 (8団体)	84,068	106,120	79.2
学校募金 (市内12校)	159,484	110,288	144.6
職域募金 (27ヵ所)	99,048	70,901	139.7
篤志募金 (市民有志等)	169,679	110,336	153.8
合 計	5,861,429	5,867,069	99.9

〈配分内容〉

配 分 先	○こども食堂等運営事業(2ヵ所) 特定非営利活動法人オープンハウスこんぺいとう、 わたしのくらしプロジェクト ○福祉車両整備事業(1ヵ所) 特定非営利活動法人福祉サポートセンター山形 ○地域福祉事業 新庄市社会福祉協議会
社 協 配分事業	老人福祉センター文化教室、愛のひと声運動事業、高齢者世帯除雪支援事業、助成金事業、児童遊び場整備事業、社会福祉協議会会長表彰、心配ごと相談事業、フードバンク、ボランティア活動推進事業、ワナゲ大会の開催、広報紙の発行、ホームページの運営、元気・ハツラツ予防体操

(事業効果等) 募金の配分金を福祉施設の整備や地域福祉事業に活用し、地域への還元を図った。

〈参考〉

街頭募金協力団体	沼田学区婦人会、新庄市身体障害者福祉協会、新庄市更生保護女性会、山形県社会福祉士会最上支部、新庄市交通安全母の会、あじさいウォーキング、日新中学校
街頭募金活動場所 活動場所提供協力	ヨークベニマル新庄店、ヨークベニマル新庄下田店、ヤマザワ新庄宮内店、マックスバリュ新庄店、ビッグフレック新庄店
学校募金協力校	新庄小学校、日新小学校、本合海小学校、萩野学園、明倫学園、日新中学校、八向中学校、新庄中学校、新庄北高等学校、新庄南高等学校、新庄神室産業高等学校、新庄東高等学校、新庄養護学校
職場募金 (募金協力)	新庄市役所、新庄市体育協会、最上広域市町村圏事務組合
職場募金 (募金箱設置協力)	新庄市役所市民相談室、新庄・最上地域シルバー人材センター、もがみ物産館、マックスバリュ新庄店、よつば調剤薬局宮内店、セブンイレブン新庄新町店、産直まゆの郷、新庄市身体障害者福祉協会(県立病院売店、合同庁舎売店)、ファミリーマート新庄千門町店・若葉町店・十日町店・常葉町店、ヨークベニマル新庄店・新庄下田店、ヤマザワ新庄宮内店、ニューグランドホテル、(株)柿本商店、ダイユーエイト(株)新庄西店、新庄警察署、ビックフレック新庄店、新庄市社会福祉協議会
篤志募金	石山宣助、新庄・最上地域シルバー人材センター、シルバーフェスティバル会場、ワナゲ大会会場、匿名9名

(順不同・敬称略)

2. 歳末たすけあい募金

(1) 募金活動

〈募金内訳〉

	令和6年度 (円)	前年度 (円)	対前年比 (%)
戸別募金 (町内)	1,845,100	1,902,800	97
篤志募金 (市民有志等)	21,400	23,000	93
合 計	1,866,500	1,925,800	96.9

(2) 歳末たすけあい運動

共同募金運動の一環として、市民の皆様からお預かりした歳末たすけあい募金について、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人達が安心して暮らせるよう配分委員会を開催し、効果的に配分した。

〈配分内訳〉

世帯区分	対象世帯数 (世帯)	配分金額 (円)
準生活保護世帯	4	80,000
高齢者世帯	51	1,020,000
母子・父子世帯	25	500,000
障がい者世帯	2	40,000
入院・入所世帯	2	40,000
その他困窮世帯	1	20,000
合 計	85	1,700,000

・配分額 現金20,000円×85世帯＝1,700,000円

・地域福祉活動費として111,512円 新庄市共同募金委員会事務費として55,000円

※歳末たすけあい配分の該当世帯のうち、母子・父子世帯の15世帯に対し、共立社新庄生協からフードドライブで寄贈いただいた食料品を提供した。

また、歳末たすけあい配分該当世帯で18歳未満の子供が3人以上の世帯に対し、一般社団法人やまがた福わたしが実施した歳末食糧支援「お福わけプロジェクト」を案内し、申込があった15世帯に食糧支援を行った。

(事業効果等)

配分金は民生委員児童委員や関係機関と協力を得て、効率的に調査・配分することができた。

【介護等支援事業】

1. 介護支援事業 (もみの木介護支援事業所)

介護支援専門員 5名

介護を必要とされている方が自宅で適切にサービスを利用できるように、介護支援専門員が心身の状況や生活環境、本人・家族の希望等に沿って、ケアプランを作成し、医療機関、サービスを提供する事業所等との連絡・調整を行った。

		令和6年度	前年度	対前年比(%)
要介護	件数	1,447件	1,576件	91.8
	収入	23,450,880円	24,876,230円	94.3
要支援・事業対象	件数	505件	452件	111.7
	収入	2,077,500円	1,879,540円	110.5
認定調査	件数	150件	169件	88.8
	収入	495,000円	557,700円	88.8
合計	収入	26,023,380円	27,313,470円	95.3

(事業効果 課題等)

- ・病院の入退院や施設の入退所の連携を強化し加算を算定することができた。
- ・新規利用者数は昨年度とほぼ同数であったが、短期利用やサービス利用に結びつかなかったり、入院から転院、施設入所で終了となるケースが多かった。
- ・新規の利用者をさらに増やせるように努力していく。

2. 訪問介護事業（もみの木訪問介護事業所）

介護福祉士 3名

介護福祉士実務者研修修了者 1名

ホームヘルパー2級 12名

(令和7年3月31日現在)

自分や家族だけで日常生活を営むことが難しくなった要介護者に対して、介護福祉士やヘルパーの資格を持った介護員が自宅に赴き、入浴、排泄、食事等の身体介護、掃除、洗濯、調理等の生活援助、通院時の外出移動サポート等の日常生活上のお世話を行うと共に、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、居宅介護支援事業所等と連携し業務を推進した。

		令和6年度	前年度	対前年比(%)
訪問介護事業	件数	728件	757件	96.2
	収入	20,889,170円	26,800,780円	77.9
障害者自立支援事業	件数	112件	124件	90.3
	収入	6,392,660円	5,054,200円	126.5
ひまわり介護サービス事業	件数	90件	106件	84.9
	収入	572,675円	560,900円	102.1
福祉有償運送サービス事業	件数	353件	527件	67
	収入	130,470円	182,220円	71.6
合計	収入	27,984,975円	32,598,100円	85.8

(事業効果・課題等)

- ・介護職員処遇加算の要件を維持できるよう事業所の体制を整備し、利用者に直接介護サービスを提供する介護職員の処遇改善を図った。その反面、介護職員の新規採用と離職の防止には至らなかった。
- ・訪問介護事業は、毎年、収入額が減少傾向にあり、いかにして減収を抑えるかが課題となっている。その対策として、新規ケース受付体制の整備、居宅介護支援事業所への営業活動、福祉

有償運送サービス事業との一体的な運用、おしらせ版での広報活動、職員の資質向上のための研修を行ったが、サービス提供責任者が2名退職したことで、利用者の受け持ち件数が減少したこととで収入額も減少した。また、介護報酬改定で基本報酬が引き下げられたことも大きく影響をうけた。

【地域包括支援センター運営事業】

1. 地域包括支援センター事業

主任介護支援専門員2名、保健師2名、社会福祉士4名、生活支援コーディネーター1名、認知症地域支援推進員1名(保健師1名が兼務) 事務員1名

○総合相談事業

①総合相談

介護に関する相談をはじめ、高齢者や地域の方の様々な相談を受け止め、包括の専門職が連携し、適切な制度やサービス、関係機関に繋げ、継続的に支援することができた。また、地域の関係機関や事業所、民生委等の関係者とのネットワークを構築できた。

総合相談事業		令和6年度	前年度	対前年比(%)
相談件数	新規相談+継続相談	11,123件	10,643件	104.5

②地域におけるネットワーク構築

福祉の関係機関・団体、事業所、医療機関、障がい者サービス事業所等と様々な会議や研修会、イベント等を通して相談対応時に連携しやすい関係性を構築しました。今年度は、特にオレンジ市場やオレンジカフェ、小中学校等との福祉教育の交流事業の開催が多く、様々な分野とのネットワークが広がった。

○権利擁護事業

介護保険サービスだけでは課題解決できない世帯や適切な制度やサービスに繋がらない困難な状況にある世帯が尊厳のある生活ができるよう専門的・継続的な視点からの支援を実施しました。高齢者虐待、成年後見制度、経済的困窮等の相談に対しては、新庄市、介護関係事業所、民生委員、医療機関、自立支援センター等の関係者と連携して対応できた。

○包括的・継続的ケアマネジメント

高齢者が住み慣れた地域で安心した暮らしを継続できるよう、介護支援専門員、病院、地域の関係機関等の連携、在宅と施設の連携など、地域における多職種の協働・連携体制づくりや、個々の介護支援専門員の支援を行った。

①介護支援専門員資質向上連絡会の開催

介護支援専門員の実践力向上やネットワーク構築のための研修会、情報交換会を開催した。

場所：新庄市社会福祉協議会 開催回数：6回 参加延人数：160名

＜内容＞

- 第1回：包括や各事業所の新体制紹介
- 第2回：住宅改修の工事例とポイント、福祉用具の活用例
- 第3回：ケアマネカフェ、こころの健康相談
- 第4回：生活の質を高める訪問リハビリ
- 第5回：事例検討会
- 第6回：指定難病と活用できる制度

②介護支援専門員への個別援助

介護支援専門員がケアマネジメントを実施するにあたり、判断に迷う時などに助言等を実施した。

困難事例については、同行訪問や関係機関との協議の場を設置するなど解決に向けて支援した。

○自立支援型新庄市地域ケア会議の開催

介護支援専門員から事例提供いただき、多専門職種が協働し、個別ケースの課題や支援内容を検討し、課題解決を協議した。各専門職の外部助言者から適切な助言を受け、自立支援型ケアマネジメントの実践力向上や関係者間のネットワーク構築を図った。

開催回数：6回（第3水曜日） 検討ケース：24ケース 参加者：73名

参加者：新庄市、居宅介護支援事業所、サービス事業所、外部助言者（薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、傍聴者

○研修会・イベント等の開催

① 認知症サポーター養成講座

認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい目で見守り支える認知症サポーターを養成した。

対象：一般市民、学校（萩野学園、明倫学園、八向中学校、升形小学校、新庄南高校）

開催回数：9回 養成人数：292名

②認知症サポータースキルアップ研修会

認知症サポーター養成講座を修了した方を対象に、認知症についての知識を深め、地域で認知症の人やその家族を支援するために必要な知識を身に付けるための講座を開催した。

日時：令和7年3月3日（月）14時～15時30分

場所：ゆめりあ会議室

テーマ：認知症の人とその家族を支援していくために

内容：新庄市の認知症施策、チームオレンジについて、認知症サポーターの活動事例報告、グループワーク（認知症サポーターとして地域でどんな活動ができるか）

参加人数：18名

③オレンジカフェ（認知症カフェ）

認知症サポーターのボランティアの協力を得ながら、気軽な雰囲気です認知症について学んだり、ミニ講話やレクリエーション、折り紙等を行いながら、交流できる場所として開催した。

実施場所 ・ひと休みいっぷく（いっぷくオレンジカフェ）

回数：10回、参加人数：86名

・社会福祉協議会2階（ものづくりカフェ） 回数：37回、参加人数：474名

・社会福祉協議会2階（オレンジ市場カフェ） 回数：4回、参加人数：105名

・地区公民館等（出張オレンジカフェ） 回数：11回、参加人数：112名

④終活に関する研修会（知って安心、今から始める終活）

「終活」や「身寄りのない方への支援」について市民に周知を図り、正しい知識を学んだ。

日時：令和7年2月26日（水）14時～15時30分

場所：ゆめりあ会議室

講師：一般社団法人終活協議会宮城県支部 高橋 航 氏

参加人数：32名

⑤いきいき百歳体操（筋力運動）・かみかみ百歳体操（口腔体操）の立ち上げ支援

高齢者の社会参加と介護予防を目的として、地域の公民館や福祉施設等で毎週体操ができる
通いの場の立ち上げや体操の実演による指導を実施した。

＜実施場所＞37箇所

社会福祉協議会、新庄市体育館、グループホーム大手町・ふきのとう、萩野地区公民館、さん
のほり、とこしえ新庄松本・新庄金沢、SOMPO ケア新庄城西、有料老人ホームすまいる、ほして
らす、日本調剤薬局、みどりの大地、すぎのこはうす、最上センター薬局、沖の町薬局、かね
ざわ薬局、新庄小学校、日新小学校、上茶屋町公民館、萩野地区公民館、千門町公民館、鳥越
公民館、日の出町会館、鉄砲町公民館、小泉公民館、横根山公民館、福原商店（末広町）、八向
地区公民館、中道町公民館、萩野多目的研修センター、金沢地区個人宅、吉袋公民館、わくわ
く新庄、金沢新町公民館、升形地区公民館、末広町公民館

⑥オレンジ市場の開催

障がい者サービス事業所の物品販売やオレンジカフェ、社協事業の周知活動等を行う「オレ
ンジ市場」を開催した。参加者が多く、知名度が向上し、NHK や YBC、山形新聞の取材を受け
た。社協の知名度向上に繋がる事業であり、地域住民・学生との交流、障がい福祉サービス事
業所との連携が深まった。今年度から地域に出向いての「出張オレンジ市場」を開催した。

○社会福祉協議会：6月7日、7月5日、10月4日、11月1日

○中道町公民館：5月23日

○上茶屋町公民館：11月14日

○新庄市民文化会館（映画オレンジランプ上映会）：1月18日

○新庄北高校：3月4日

（事業効果等）

昨年度より相談が多かったが、各専門職が専門性を活かし、関係機関と連携し、包括的な相談支
援を実施できた。特に関わる機会が多い地域の介護支援専門員との連絡会においては、内容がより
充実し、資質向上やネットワーク構築が強化された。また、今年度は、百歳体操の開催場所が大幅
に増え、オレンジ市場やオレンジカフェといった地域住民と交流する場が増えた。さらに小中学校
や地域の高齢者が交流する機会を提供し、世代間交流を図りながらの福祉教育も実施できた。

2. 介護予防支援事業（もみの木介護予防支援事業所）

介護保険で要支援者及び介護予防・日常生活総合事業における事業対象者に対して、心身の状態や環境に応じた適切なケアマネジメントを実施し、介護予防サービスの利用を支援しました。また、元気高齢者には、いきいき百歳体操などの通いの場を紹介し、地域における介護予防活動を推進した。

介護予防ケアマネジメント	令和6年度	前年度	対前年比（%）
総 件 数	4,442件	4,412件	100.7
内センター作成分	1,250件	1,402件	89.2
委 託 件 数	3,192件	3,010件	106
収 入 金 額	20,618,640円	20,214,180円	102
委託費支出金額	13,537,400円	12,559,940円	107.8

（事業効果等）

総件数は、昨年度より30件増だった。令和6年度は、正職員1名が産休中のため、居宅介護支援事業所に委託するケースが増え、委託可能な事業所の選定や連絡調整に苦勞したが自立支援に繋がるケアマネジメントとなるよう、各事業所へ適切な指導を行なうことができた。また、介護保険サービスだけでなく、いきいき百歳体操など地域の通いの場も積極的に活用し、介護予防を推進することができた。